



埼玉ALC外観

**最新の防災設備
安定供給のために**

— 医薬品卸売業の役割をどのように捉えていますか。

当社のホームページトップ画面に「この国で、薬を届けるという使命。」そして「どんな薬も、届かなければ意味がない。」という2つのメッセージを掲げています。このメッセージに私たち医薬品卸の姿勢と覚悟が込められています。

当社は、2004年に起きた物流センターのシステムトラブルで、お得意様に安定して商品をお届けすることができなくなるといふ大変な迷惑をおかけしました。しかし、この辛い経験があったことで、安定してお届けすることが卸の基本だと強く認識できました。また、阪神・淡路大震災

— 災害にどのように備えていますか。

医療用医薬品等の高機能物流センターであるALC(エリア・ロジスティクス・センター)には幾多の自然災害を経験した教訓が生かされています。免震構造、自家発電装置、また幹線道路が不通になっても配送できる緊急用バイクや自家給油設備などを備えています。このようなALCを全国12カ所に展開しており、国内のどのエリアで災害が発生しても流通を途切れさせない体制を整えています。また、機能面だけでなく、いざというときに従業員が的確に行動するために、地震、台



得意先別高速仕分け装置・クロスベルトソーター

や東日本大震災といった数々の有事を乗り越えてきた中で、平時・有事を問わず、当社の果たすべき役割の重要性を年々痛感しているところです。

ネット社会により、情報はいつでもどこでも手に入るようになりましたが、商品は誰かがその手でお届けしなければなりません。中でも医薬品は決して流通を途切れさせてはならないものです。例えば、人工透析を受けている患者さんは、透析液の配送が滞ってしまえば生命の危機に直面します。私たちの仕事には、まさにこの国の「ライフライン」を支えるという使命があると自覚しています。

— ALCの物流機能について教えてください。

ALCでは、商品ひとつの重量、サイズ、製造番号、有効期限などを全てデータ管理しています。このデータを利用して入庫から出庫までの過程においてミスやエラーが起きにくい仕組みを構築しており、99.9997%という高い出荷精度を実現しています。また梱包用テープで納品箱をバンドニングして、お得意様の手元へ届くまで箱内の商品には誰も触れ

— 現在コロナワクチンの接種が全国で進んでいます。メディバルはどのような役割を果たしていますか。

主に大規模接種センターや職域接種会場にワクチンを配送する業務を担っています。普段の納品時とは異なり、医薬品に不慣れな方が受け取る場合が多いため、取り扱いの説明を丁寧に行うなど様々な配慮をしています。ワクチンの配送にはマイナス20度±5度の環境が必要ですが、当社では再生医療等製品の輸送のために開発した**超低温輸送システム**のノウハウと経験があり、スムーズに対応できています。

— 超低温輸送の技術、実はPFM(プロジェクトファイナンス&マーケティング)という当社独自のビジネスモデルがきっかけで構築していたのです。世の中にはまだ治療薬が存在しない希少疾病が数多くあります。にもかかわらず、患者人口が限られるため経済性の観点から開発が取り残されがちです。PFMは希少疾病の新薬開発を進める製薬ベンチャー企業等の開発プロジェクトに当社が投資を行い、製品が世に出た後の安定供給についても担保する取り組みです。

**ワクチン配送
超低温で円滑に**

— 配送回数の集約
環境負荷を低減

— 医薬品卸売業を持続可能とするために取り組んでいることは、国民のライフラインを支える大事な役割であることも義務感だけでは持続できません。現在、お得意様である保険薬局チェーン数社と新たな医薬品流通最適化モデルの構築に向けたトライアルを始めました。生命関連商品を扱う関係で1軒当たり1日複数回の配送が当たり前だったものを1回に集約する取り組みです。これにより、配送車両などから排出されるCO₂の削減はもちろんのこと、保険薬局内の業務負担を減らし、本来業務に専念していただく時間が創出できます。併せて配送や出庫に関わる当社従業員の負担軽減にもつながります。

「流通価値の創造を通じて人々の健康と社会の発展に貢献します。」という経営理念を実現していくためには、私たち自身が心身ともに健やかでありたいという思いがあります。当社グループでは、従業員が健康リテラシーを高めるべく「日本健康マスター検定」を取得するなど自己研さんに努めています。単に投薬に係る領域だけでなく、予防から診断、そして治療に至るまで幅広くサポートしていくことで、人々の健康と社会の発展に貢献していきたいと思っております。



大規模接種会場へのワクチン搬入

**全温度帯物流
(超低温輸送システム含む)**

マイナス196℃から
プラス40℃まで

医療の多様化・高度化とともに、細胞由来の再生医療等製品など特別な温度管理が必要な医薬品も増えています。当社では、マイナス196℃の超低温からプラス40℃まで、あらゆる温度帯に対応した保管・配送システムを開発。出荷時から患者さんへの投与直前まで、輸送専用カートの位置や温度情報等をリアルタイムに確認し、温度逸脱などの異常が発生したときは、アラートメールを発報するシステムを導入しており、全国どこへでも安全・安心・効率的にお届けできます。

「超低温輸送」をはじめ全温度帯に対応

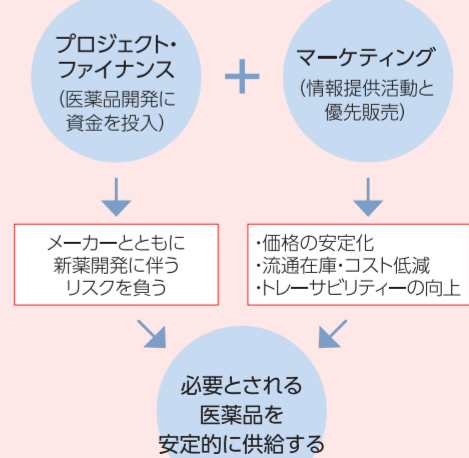


PFM®

まだ無い治療薬を待つ
患者さんのために

患者数が少ない希少疾病の治療薬の中には、資金面の障壁により開発が困難になってしまうものもあります。そこで希少疾病の新薬開発を手掛ける製薬ベンチャー等のプロジェクトに当社が投資し、その上市が実現した後は投資に対するリターンを得る(プロジェクト・ファイナンス)とともに、医療機関への販売・流通(マーケティング)を優先的に行うというビジネスモデル、PFM®を確立しました。

**希少疾病用医薬品の
開発と安定供給を支える**



この国の ライフラインを支え続ける

医薬品卸売業の使命



株式会社メディパルホールディングス
代表取締役社長
渡辺 秀一氏

「医療と健康、美」のフィールドで卸売事業を営むメディパルグループ。医薬品、医療機器、臨床検査試薬をはじめとして、日用品や動物用医薬品、食品加工原材料まで、必要なものを必要な場所に確実に届ける役割を担い、全国に流通網を構築している。さらに高い防災機能を備えた最新鋭の高機能物流センターを全国に設置し、物流機能の高度化・多様化を突き進める一方、流通最適化にも着手するなど業界をリードし続ける。メディパルホールディングスの渡辺秀一社長は同社の原動力を、日本のライフラインを支える使命感だと考えている。

広告

企画・制作=日本経済新聞社
コンテンツユニット